

顕彰状

龔旗煌氏は1964年、中国福建省莆田市に生まれ、1983年に中国北京大学理学部を卒業し学士号を取得した後、同大学院に進学、1989年に北京大学より理学博士号（中英共同プログラム）を授与された。1991年から北京大学にて教鞭をとり、1998年には長江学者奨励計画招聘教授、2016年には北京大学博雅講座教授、2013年には中国科学院院士、2018年には発展途上国科学院院士に選出された。2017年から2019年には北京大学副校長、2018年から北京大学教務部長、大学院院長、常務副校長を歴任し、2022年6月には北京大学校長に就任し、大学院長を兼任している。

北京大学の役職に就任している間、龔氏は、積極的に北京大学の教員人事改革に着手し、高度人材導入体制を整えた。その結果、北京大学は直近6年間で優れた研究者1,000名以上を受け入れ、そのうち7割は海外からの雇用であった。また、学部教育および大学院教育の質的向上を図るため、特定分野における英才教育計画および「卓越人材育成計画」を打ち出し、数学、物理、化学、生物において、国家高度人材育成センターの設立を先導した。さらに、北京大学のグローバル化推進のため、外国要人や著名大学の学長の訪問を多数受け入れ、20以上の国と地域を訪問するとともに、デジタルスマート教育国際大学発展連盟を発起した。加えて、大学全体の研究能力の向上にも力を注ぎ、目標達成と自由探索の両立を図りながら、組織的な研究力を強化した。大学経営に関しては、開かれたキャンパスの運営を提唱し、国内大学との協力関係を深め、国際交流をより一層促進した。こうした取り組みを通じて世界の高等教育機関との教育、研究、文化の交流を推進し、世界における同大学のプレゼンスを大きく高めた。

研究者としては、長年に渡り非線形光学と超高速フォトンクスを主な研究対象とし、特に非線形光学と小規模時空間光学等の研究に注力した。非線形光学と小規模時空間光学における物性、新しい効用、応用に関する体系的かつ革新的な研究を通じて、励起状態での高速電荷移動により超高速かつ巨大な3次非線形光学効果を発現させる新しい手法を提案し、高性能な超高速低閾値全光スイッチングを実現した。極端光学分野における龔氏の優れた研究業績が認められ、国家自然科学賞二等賞、教育部自然科学賞一等賞、北京市科学技術賞一等賞、何梁何利科学技術賞など、これまでに中国国内外より数多くの賞や名誉称号が授与されている。また、国際学会においては、国際光学委員会（ICO）副会長、国際純粋・応用物理学連合（IUPAP）量子エレクトロニクス専門委員会幹事をはじめ、米国光学会・国際光学工程学会フェロー、中国物理学会副会長、中国光学学会理事長等の要職を歴任している。

早稲田大学では1899年から今日まで積極的に中国人留学生を受け入れている。当時の革命先駆者である李大釗氏が本学で学び、帰国後に北京大学において図書館長を歴任した際、同氏の要請に基づき本学から数多くの学術図書を寄贈して北京大学図書館の蔵書拡充に寄与したことが交流のきっかけを作った。以来、100年にわたって北京大学との友好関係は続き、本学が創立100周年を迎えた1982年には、学術交流協定を締結している。これは、本学にとって、中国の大学との戦後初の大学間協定であった。これを機に広範囲にわたって共同研究、研究者・学生交流を実施、共同育成プログラムを立ち上げるなど、中国の数ある大学の中で最も目覚ましい交流実績を築いてきた。このような経緯もあり、龔氏は、かねてより両大学間の学術交流活動に対し深い関心を示しており、特に校長就任後は、キャンパスアジアプログラムの推進、本学から派遣するダブルディグリープログラム学生向けの英語教育課程の充実化、両大学共同育成プログラムの活性化、人文・社会科学を中心とした共同研究交流事業等を通じて、本学との間での教育研究活動の連携をさらに推進し、両大学の交流を一段と高いレベルに引き上げることに大きく貢献した。

「世界で輝く WASEDA」を目指す本学としては、北京大学は最重要パートナーのひとつであり、より一層の交流活動の展開が大きく期待されている。従って、世界的に著名な学者であり、北京大学校長でもある龔氏に、名誉博士の称号を贈呈することは誠に時宜にかなっているというべきである。

ここに早稲田大学は、龔旗煌氏に名誉博士（Honorary Doctor of Science）の学位を贈ることとした。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)

2024年9月21日

早稲田大学